

令和5年 10月10日

株式会社レノバ
代表取締役社長 CEO 木南 陽介 様

日本野鳥の会秋田県支部
支部長 佐々木 均
秋田県横手市前郷一番町 1-21

公益財団法人 日本野鳥の会
理事長 遠藤 孝一
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
(公印省略)

日本雁を保護する会
会長 呉地 正行
宮城県栗原市若柳川南南町 16

(仮称) 由利本荘岩城風力発電事業 計画段階環境配慮書に対する意見

現在、縦覧中の「(仮称) 由利本荘岩城風力発電事業 計画段階環境配慮書」に対して鳥類及び生態系保全の立場から以下の意見を述べる。

記

事業実施想定区域(以下、計画地)はその大部分が道川鳥獣保護区、あるいは保安林に指定されており、広大な緑地が広がる豊かな里山環境である。鳥類のみならず生物全般の重要な生息地になっており、生物多様性に寄与している区域である。この区域に巨大なウインドファームを建設することは、開発による野生生物の生息環境の破壊と悪化をもたらす生物多様性の第一の危機に該当する行為であり、生態系保全のために容認することはできない。

そのため、鳥類および生態系の保全のために計画の白紙撤回を求める。

以下にいくつかの点について具体的な意見を述べる。

- ・ 計画地は、ミサゴ、サシバ、オオタカ、ノスリ、ハチクマ、ハヤブサ等希少猛禽類の繁殖地となっている。また、ヤマドリ、ノウサギ等の個体数も多いことから、これらを餌とし、計画地および周辺でしばしば目撃されるクマタカが繁殖している可能性も高い。
- ・ 計画地は希少猛禽類、ガン・カモ・ハクチョウ類、スズメ目小鳥類等鳥類の渡りの主要経路になっている。猛禽類については計画地南に位置する由利本荘市岩城亀田亀田町付近で計画地方面から南下するハチクマの大群が野鳥の会秋田県支部(以下県支部)の会員により複数回目撃されている(注1)。またノスリも南下する様子が複数回、県支部会員により目撃されている(注2)。単に通過するだけでなく、この付近から飛び立つ個体も多いことから、渡りの途中で休息・滞在する中継地の役割も果たしていると思われる。
- ・ 山階鳥類研究所・日本雁を保護する会等の GPS 標識調査により、マガン、ヒシクイ、シジュウカラガン、ハクガンが越冬期および春の渡りの時期に計画地を通過することが確認されている(図①-1、①-2、①-3)。

- ・ 南側の計画地は東西方向に広がっており、ここに風車が並べば渡りの南北方向の動きを大きく阻害する。また、個々の風車はこの地から飛び立つ個体の飛び立ちを阻害する。すでに周辺に大小のウインドファームが建設・計画されており、累積的影響を考えると、これ以上この一帯に風車を建設するべきではない。
- ・ 計画地の風車設置予定地の現況は大きな道路がほとんどない山林である。地中深く掘削する必要のある風車本体の建設ヤード、取り付け道路、土砂災害防止のための防護壁や排水施設等の工作物の新たな建設は現況の生態系を劇的に変えてしまう。生物にとって重要な生息地であるこの区域の改変は生物多様性保護の観点から行うべきではない。
- ・ 今回の意見書に記載されている意見等は概要としてまとめることなく、原文のまま掲載することを希望する。また、添付の図も掲載することを求める。

注1)

2018年9月17日 ハチクマ 32羽 (未公表)

2023年9月16日 ハチクマ 41羽 サシバ 2羽 (支部 HP 記載)

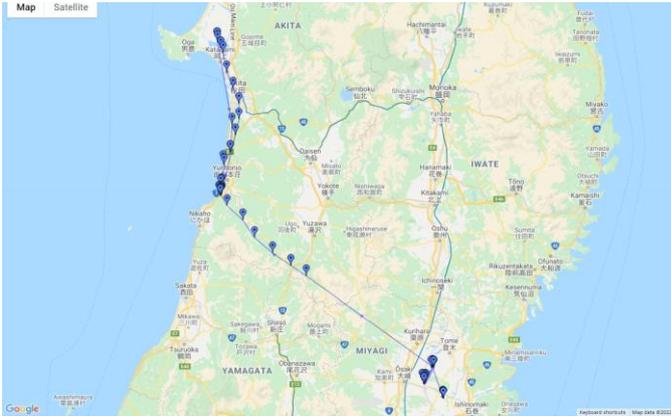
注2)

2018年10月12日 ノスリ 120羽 (未公表)

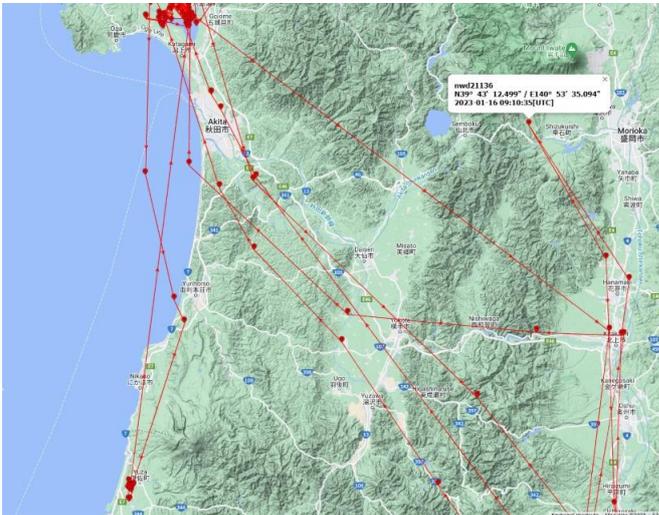
2018年10月18日 ノスリ 46羽 (未公表)

注1) 注2) とともに観察地点はいずれも由利本荘市岩城亀田亀田町

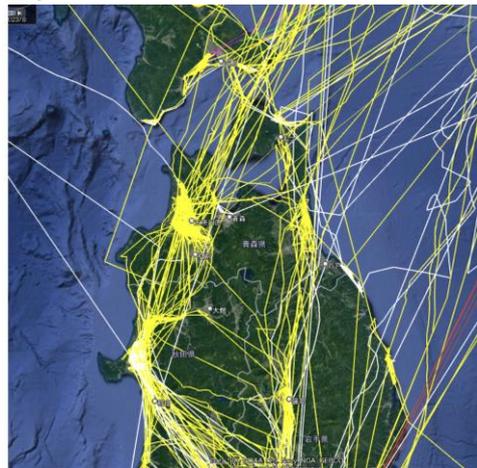
図①-1 図①-2 図①-3 ガン類の GPS 調査例 (データ提供 山階鳥類研究所他 未発表)



図①-1 マガン 2022年2月17日



図①-2 シジュウカラガン 2023年1月16日



図①-3 ガン類全般
(コクガン、マガン、カリガネ、ハクガン、シジュウカラガン) 2017年～2022年 東北地方拡大図